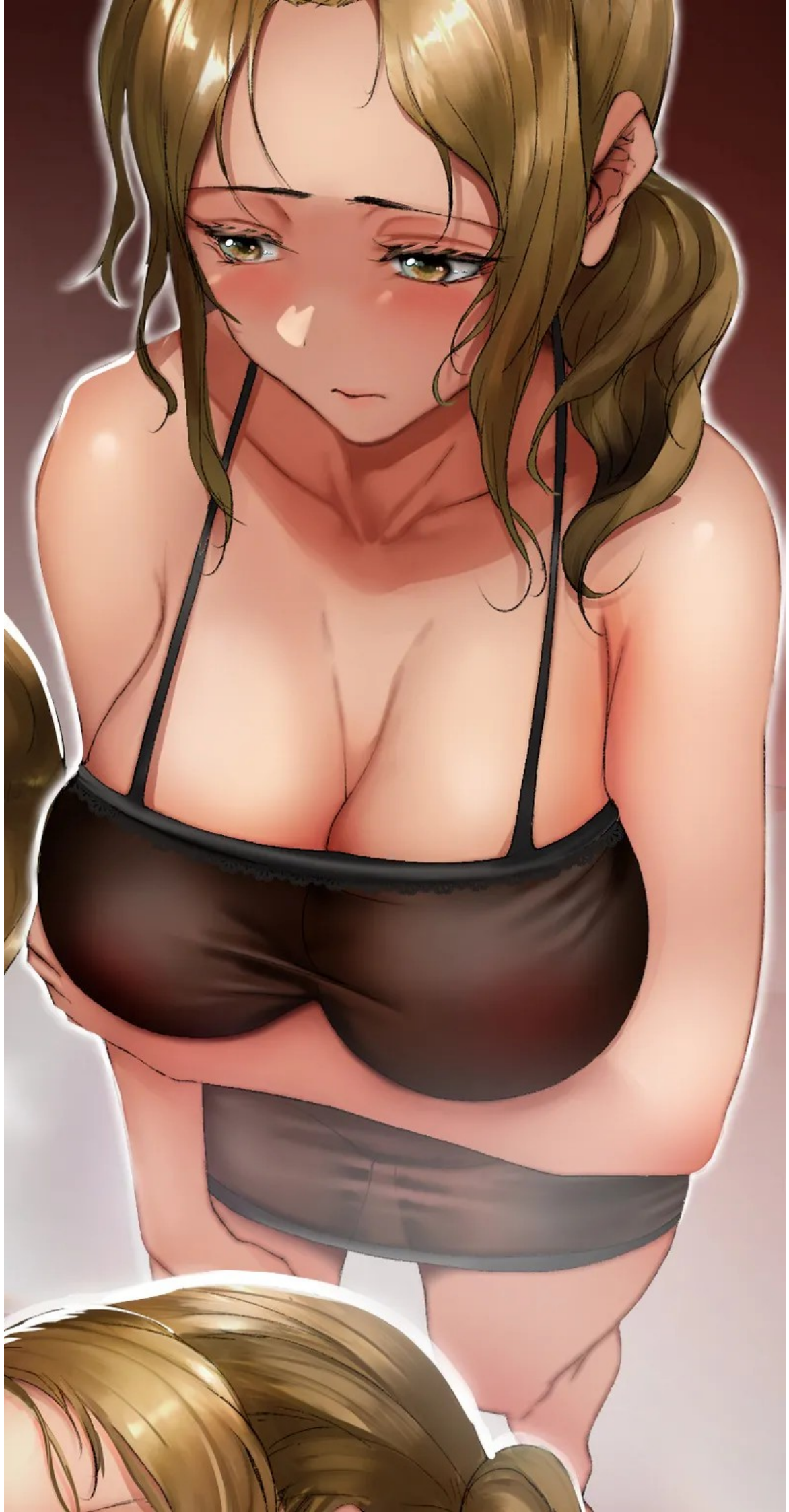


十数年前  
夫が失踪した

時間もお金もかけ  
ようやく探しだした夫は  
新しい家族と暮らしていた





夕ガが外れは私は  
いつも親身にしてくれた  
年下の青年を誘った

彼が私に  
好意を抱いている事を  
知りながら――

私はそれに甘えたのだ





肉棒に膣内を  
かき回される感触

私の身体で必死に気持ちよくなるうとしている男の愛おしさ

十数年ぶりの感触に  
私は溺れていった



長年溜まった  
私の欲求不満と

はちきれそうな  
彼の性欲が混ざり合い

寝食を忘れ  
貪るようにお互いを求めあった

もう愛する人は離さない

たとえこれが情欲にまみれた  
偽りの愛だとしても













